

埋文やまがた



2022年3月31日
web版第10号
(第66号)



水林下遺跡（遊佐町）

東に鳥海山、西に日本海が広がる台地に位置する水林下遺跡。旧石器時代から今までの長い年月の間、変わらず人々の営みが行われていきました。

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地 TEL 023-672-5301 FAX 023-672-5586

ホームページ：<https://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：yac@yamagatamaibun.or.jp

杉沢C遺跡は、山形県北西端にあたる遊佐町杉沢地区に位置する縄文時代と近世の集落遺跡です。鳥海山麓の小盆地を流れる月光川支流の熊野川の左岸に立地しており、1953（昭和28）年に石囲いの中から横になった完全な形の土偶が発見されて有名になった杉沢A遺跡からは、600mほど東に離れています。また熊野川の対岸には、1978（昭和53）年に国の重要無形民俗文化財に指定された番楽（山伏によって舞われる神楽）「杉沢比山」の舞台となる熊野神社があります。

発掘調査は令和2・3年の2カ年にわたり実施されました。調査区は熊野川南岸に沿っており、全体がかつての河道跡になっていま

す。河道が埋没する過程において、縄文時代の人々の生活の痕跡が認められており、縄文時代中期前葉（大木7b式）～晩期末葉（大洞A'式）までの土器が出土しました。特に今回の調査では後期前葉（南境式期）の土器がまとまって出土しました。縄文土器は地文だけの深鉢（粗製土器）が多く、装飾された土器は少なく、川の側で煮炊き等の作業を行っていたと推測されます。

近世では、建物の柱穴と思われるピットが多数検出されました。調査区域に鳥海山で修行する山伏の宿坊があったことを示す絵図が残されており、昨年と同様にそれを裏付ける成果を得ることができました。（小林圭一）



右側（東）が近世の柱穴群が検出されたD区、左側（西）が縄文土器が多く出土したE区です



調査区（中央下方）を南側から撮影した空中写真です。上方が鳥海山、右側の杉林が熊野神社です



縄文土器（後期前葉）が潰れて出土しました



近世の建物跡の柱穴群の検出状況です（D区）

水林下遺跡は、秋田県境そばに所在し、鳥海山西麓にあって、日本海にも飛島にも近い場所に立地した遺跡です。今回の調査は2次調査になります。昨年度設定したC区を東・西・北に分けて調査を行いました。

遺跡の時代は旧石器から近現代になります。おもに、旧石器時代の打製石器が多数出土しました。上層からは縄文時代の土坑、古代の竪穴建物跡のほか、溝跡や杭跡・柱穴などが検出され、須恵器と土師器が出土しました。

昨年度、約150点の旧石器が出土したB区に隣接するC区東でも、約300点の旧石器が発見されました。B区とC区東の旧石器の分布のしかたから、B区を中心とする約4～5mの範囲の第1ブロックと、C区東の8～10m範囲の第2ブロックの2つの石器集中部が確認されました。

さらに、第1ブロックと第2ブロックの間からは、透閃石岩（ネフライト）製の磨製石斧が発見されました。この透閃石岩は、鑑定の結果、富山県と長野県境付近で産出する良質な石材であることが判りました。近隣で採取できない石材のためか、作り直しや使い込みにより、元の形から著しく変形していました。この斧のほかには、透閃石岩製の剥片やチップも出土しました。

出土した石器群は、その特徴と1次調査出土の炭化物による放射性炭素年代測定により、約3.5万～3.38万年前の後期旧石器時代前半期のものと判りました。このことから、本遺跡の磨製石斧が当該時期の県内初の出土事例、かつ県内最古の事例と言えます。また、当該時期は全国的に複数の石器ブロックが環状をなすことが多く、隣接する未調査区にブロックがある可能性があります。

透閃石岩製磨製石斧は、後期旧石器時代前半期の日本海地域にのみ分布しているのが判っています。つまり、日本列島に確実にヒトが現れたところに、環日本海をめぐるヒトとモノの往来がすでにあり、本遺跡もその経由地の一つであったことが考えられます。

（大場正善）



発掘調査により県内で初めて出土した透閃石岩製の磨製石斧です



遺跡は鳥海山西麓と日本海に挟まれた場所です



後期旧石器時代前半期の楔形石器が出土しました

山形城三の丸跡は山形市の市街地中心部にあります。山形城は14世紀に斯波兼頼により築城され、近世初期に最上義光により日本屈指の広大な敷地面積を誇る平城として整備拡張されました。山形藩は最上氏改易後石高が減り、17世紀末以降は失脚した譜代大名の転封先となり、藩主も頻繁に入れ替わり、その度に石高も減らされました。そのため、徐々に広大な城の維持が困難となり、江戸時代末の秋元、水野の時期には、本来武家屋敷区域であった三の丸のほとんどは農地として活用されていました。現在、山形城の本丸と二の丸部分は国指定史跡に制定され、市街地化した三の丸の範囲は「山形城三の丸跡」という遺跡として県に認知されています。

調査は、都市計画道路旅籠町八日町線の拡張に伴うもので、調査区は山形市立第一小学校近辺に位置し、今年度は4か所調査しました。この地域は、江戸時代初めには大身家臣の屋敷地でしたが、江戸時代の末にはほとんど畑地として活用され、明治時代以降に市街地化しました。そのため、調査区の北側である1区と2区からは江戸時代後期の遺構や遺物を確認できましたが、それより南側の3区、4区からは江戸時代の遺構遺物はほとん

ど確認できませんでした。その代わりに、2～4区からは古代の8世紀後期ぐらいの時期に該当する土師器や須恵器といった土器が出土しました。また、一辺8mほどもある竪穴住居跡が、2～4区からそれぞれ1棟ずつ検出されています。

広大な山形城三の丸跡の東側で、8世紀代の竪穴住居跡が検出されたのは初めてです。限られた調査範囲のため、全形まで確認するに至りませんでした。来年度以降の調査でも引き続き同時代の竪穴住居跡が検出され、地域の古代社会の様子が明らかになることが期待されます。

(齋藤健)



3区のST73 竪穴住居跡です。(南西から)



2区のST50 竪穴住居跡です。(北東から)



4区のST140 竪穴住居跡です。(南東から)

遺跡体感ツーリズム in たかはた 10月24日(日)

高畠町の山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館を出発点に、付近の史跡や遺跡を廻りました。25名の方にご参加いただき、きれいな秋晴れの中、安久津古墳や安久津八幡神社、清水前古墳、瓜割石庭公園を散策しました。



安久津支群1号墳、石室の中に入って埋葬者の気分に…。



採石場である瓜石庭公園、垂直に砕石された大迫力の岩山を見上げます



安久津八幡神社では県指定の三重塔・舞楽殿・本殿を見学

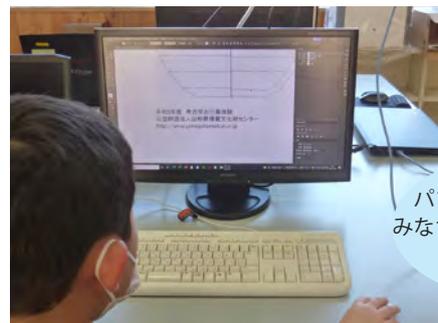


考古学お仕事体験 11月7日(日)

毎年行っているセンター参観デーを、今年は整理作業体験を中心に『考古学お仕事体験』として行いました。皆さん一日考古学者として一生懸命、楽しんで色々な作業を体験してもらいました。



注記体験、小さな字を書くのはむずかしい・・・



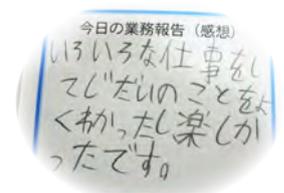
パソコンでトレース体験
みなさん、操作を覚えるのが早い早い



土器の文様を写しとる
拓本体験
きれいに出来るかな？



接合体験では
模様をヒントに
縄文土器をくっつけます



令和3年度山形県発掘調査速報会 3月6日(日)



山形市の山形県生涯学習センター遊学館にて速報会を行いました。令和3年度に発掘した埋文センターの3遺跡のほか、史跡山形城跡(山形市)・史跡館山城跡(米沢市教育委員会)・駒籠楯跡(大石田町教育委員会)の計6遺跡について報告されました。強い吹雪の中、89名もの方に足をお運びいただきありがとうございました。

令和3年度市町村巡回展

3市町村で、地域の遺跡を中心に展示を行いました



庄内町

昭和に発掘された遺跡が多い庄内町。製塩土器など庄内特有の土器も出土しています。

8月2日(月)～
8月12日(木)
庄内町文化創造館
響ホール



新庄市

縄文時代の土器や石器が多く出土している新庄市。遠くの地域との交流が伺える黒曜石も出土しています。

9月23日(木)～
10月3日(日)
新庄市市民プラザ
市民ロビー



河北町

縄文時代から近世まで、様々な時代の遺物が出土している河北町。町で発掘した遺跡も併せて展示しました。

1月18日(火)～
1月30日(日)
河北町総合交流センター
サハトベに花



編集後記

今年度山形県埋蔵文化財センターでは3遺跡の発掘調査を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響や、雨天続きの天候のため、現地での発掘説明会は

満足に出来ませんでした。来年度こそ、皆さんに実際の現場で発掘の成果を披露出来ることを願ってやみません。